

大学生活 2021 大会

この夏、ピクトグラムが青い。一年越しの大会は賛否両論ながら開催され、その種目は青い図像で表わされた。

ときをおなじくして、大学生たちは残りわずかな学生生活を、あいもかわらずに蔓延るCOVID-19の犠牲にするまいと、新しい生活のかたちを模索しつづけた。

模索の果てでも変わらず青い大学生活を、青いピクトグラムで表現してみることにした。



1週間前 「レポート進んだ?」「いや、まだ1字も書いてない(笑)」「それで、いま何やってるの?」「マンガ読んでる……。だいたいようぶ、ようよう(笑)」「ははは」

2日前 「見え張って余裕かましてたけど、いやあ、もう間に合わないな。この講義は捨てた。寝よう」

前日の夜 「いや、やっぱり、ここで単位を落とすわけにはいかない。か、書こう……」

こんなこと、社会人になったら、もうできない話。



目が覚めた。カーテンの隙間から漏れていて、もうずいぶん日が高いらしい。時計を見ると、50分。あれ? 今日は何時から授業だったっけ?!

通学時間がなくなったから、1限にも間に合うようになった。はずだったのに……。そうは問屋が卸さない。いっそこのまま、布団の中で授業を受けちゃおうかな。



これまでなら終電を気にしていた飲み会も、自宅からの中継ならば、心置きなく喋り続けられる。平日であっても平気で日付を超えるのは、若さの過信と無茶の象徴だ(もちろん翌日はしんどいのがお決まり)。カラオケオールができなくて、大学生の夜型生活は、続く。



ピクトグラムは、
現在
LINE スタンプ
として
公開中!



新学期が始まり、初めての対面授業。とりあえず隣の席の子と名前を教え合ってみたものの、話が續かない。
「出身どこですか?」私は無難な一手で探りを入れた。
「〇〇県です!」
「そうなんですか! 家族と旅行に行ったことありますよ! 温泉とか有名ですよね」
「そうです~。いいところですよ。ちなみに、△△さんの出身はどちらですか?」
楽しい地元トークはこの後も続いた。
かくして、私は何かと気まずい初回授業を乗り越えたのである。



ノートの最初のページを見てみると、あまりの字の丁寧さに驚愕。授業動画を途中で止めながら自分の和訳を見直していた第二外国語の授業も、今では2倍速で視聴。理解するまで繰り返し再生していた授業も、今では動画を閉じれば全て忘却……。授業の受け方、雑になってるなあ……。

サークル活動をする大学生ならば、誰もが一度は経験する、活動の現場にはじめて足を踏み入れる瞬間。SNSで案内された部屋のまえに立つ。それだけでも心音が煩いのに、ドアを開けるとなるともう、ドッキドキ。そーっと、静かに覗くと……。

